



木や草の葉で里山を表現し、ラミネート加工したクラフトを木の枝で額縁風にアレンジ (上)、竹で作ったスタンドにスケッチを飾る (右)

木の葉を集めて魅力的に表現 ストーブを囲んで冬の自然をスケッチ



十二月の声を聞くかと思いきや、雪が厳しくなります。七塚高原では、スタッドレスタイヤをはかないと行動できなくなります。赤い木の実是一段と華やかさを増し、落葉樹は「もう限界だ」と言っています。来る日も来る日も木の葉の雨を降らします。なぜかヤマコウバシとカシワは、まだ落ちるもんか」と言っています。

冬は、雪合戦、雪洞作り、そり遊びが定番ですが、今回はストーブを囲んで冬の自然(木の葉・木の実など)を使った里山のスケッチについて紹介します。

まず、里山の散策をしながら材料集めをします。あまりポリウレタンのあるものは、コピーパーミネートに不向きなので、美しい木の葉や花びら、細い枝、木の実、草の葉などを集めます。あらかじめスケッチの構想があれば無駄なく

七塚四季の環境学習



⑤里山のクラフトを楽しむ

材料を集めることができます。赤色は、カエデ類、サクラ、ナツハゼ、黄色は、イチヨウ、ヤマノイモ、タカノツメ、白色は、コシアブラ、サザンカの花びら、茶色は、コナラ、クリ、クヌギなどがあります。

描きたい里山のスケッチの構図を、A4またはB4の用紙に下書きします。それを、集めた材料を使って魅力的に表現します。いろいろな方法を考えられますが、木の葉を切って加工してもよいと思います。材料をのりで貼り付けて完成します。できあがったものは、カラーコピーをしてからラミネーターにかけるとよいでしょう。

竹や木片でスタンドを作り、スケッチを立てれば一段と引き立ちます。また、木の枝で作った額縁に入れるとさらに見栄えがします。

(NPO法人七塚原自然体験活動研究センター)
理事長 西村 清巳



③「一日一会」冬を元気に

脳卒中のシーズン到来

毎日の自分との出会いを大切に



「まいがする」
このように中風は外因説、中気は内因説と分けるところが興味深い。脳卒中は、わが

「尾」秋元不死男。「卒中」は、卒然として中(あたる)の意味。昔は原因がよく分からなかったから、中風、中気などと呼ばれ、恐れられていた。「中風」は風にあたる意。風、寒、暑、湿燥、

火など気象因子を六因と言ひ、そのうち風にあたって倒れたと思われたのが中風である。「中気」は喜、怒、憂、思、悲、恐驚の七情のうち、怒を主とした感情の昂ぶり、つ



まり気にあたった病のことである。物事に興奮して脳内出血で倒れたりするのが中気に相当する。

このように中風は外因説、中気は内因説と分けるところが興味深い。脳卒中は、わが

国の代表的な国民病。極寒は危険な季節だから注意しなければならぬ。脳卒中の前兆には、(一)急に片方の眼が見えにくくなる、(二)寝ぼけたように意識がもうろうとする、(三)片側の手足が

痺れて力が出なくなる、(四)ひどいめまいがする、(五)ろれつがまわらなくなり、急に言葉が出なくなる等がある。「生老病死」は人の常。だが、日頃から気をつけていれば元気で長生きできる。一期一会、一期一生、いや「一日一会」と思って、「毎日の自分との出会い」を大切にしたい。「俳句は自分と出会う作法」でもある。

(太陽俳句会主宰 務中昌巳 著「俳句セラピー」北漢社抜粋)



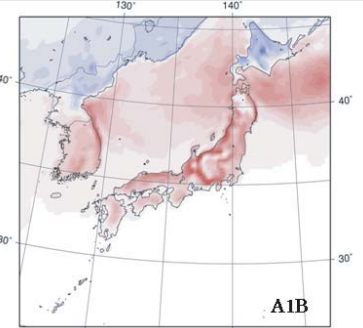
⑤ 降雪量の変化

これまで、地球温暖化に伴う気温の上昇、大雨日数の増加について紹介しました。今回は冬場の降雪量について話します。

広島県も東北は国の豪雪地帯の指定を受けており、積雪により住民は不便を強いられます。一方でスキー場はこの恩恵を受けて、経済効果を生み出します。温暖化に伴う雪の降り方の変化は、人々の生活や経済活動の変化にも関係してきます。

気温上昇で冬場の雨量が増加 生活や経済活動に影響も

気象庁が21世紀末における寒候期(12~3月)の総降雪量の変化を予測した結果を図に示します。赤い色は現在より降雪量が減り、灰色は増えることを示しています。北海道で灰色が目立ち、そのほかは赤色が目立ちます。



気象庁による将来気候(2081~2100年)寒候期の総降雪量の将来変化予測

冬場に雪が増えるかどうかは、冬場の降水量の増加と気温の上昇量の両方を考慮して議論しなければいけません。気象庁の予測では21世紀末の寒候期の降水量は、北日本ほど増加するとしています。北海道は冬場の降水量が現在より20%前後増加すると予想されており、気温の上昇量を考えても、北海道が高緯度のため気温が低く、降水形態は大半は雪であることから、降雪量の増加につながります。一方、本州では降水量は

増えるのですが、気温上昇効果が雪を雨にする方向につながり、その結果降雪量が減るのです。広島県もそれに当たります。細かく言うと、広島県で雪が降るパターンは大きく分けて2つに分けられます。一つは、主に山間部で雪が降るパターンで、大

うひとつは瀬戸内海側で雪が降るパターンで、四国の太平洋側で発達する低気圧によって降雪がもたらされるものです。山間部に比べて気温が高いために、湿った重い雪になるケースがほとんどです。将来は、山間部中心の降雪は、気温上昇の効果で雪であったものが雨になってしまうことにより、スキーに適した十分な積雪量とならなったり、また雪質も北海道のような寒い地域で見られるさらさらした雪から湿った雪に変わっていく可能性があります。

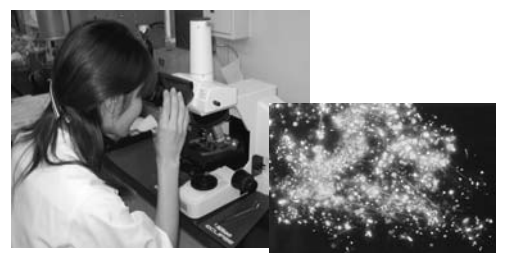
また、瀬戸内海側で四国沖低気圧によってもたらされていた雪が、気温上昇により雨になるケースが増え、降雪日数が減少していくことが予想されます。

(広島地方気象台 観測予報課 岡崎 賢治)

アスベスト分析 (当会では6種類の分析が可能になりました) 「健康被害拡大で無警戒の石綿を対象とした法律の見直し」

平成20年2月に厚生労働省からアスベスト6種類分析の徹底に関する通達が出されました。これにより、アスベスト分析においては、従来の3種類{アモサイト、クリソタイル、クロシドライト}に新たに3種類{アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト}を加えた6種類の分析が必要になります。

※ご要望により試料採取の対応を行います。詳細は、お気軽にお問い合わせください。



問い合わせ：財団法人広島県環境保健協会 環境生活センター 業務開発課 電話：082-293-0163 (ダイヤル) FAX：082-293-8915